

令和3年度

あしや

の幼児教育 (No.3)

～身近な自然との

関わりからはじまる保育～



芦屋市立幼稚園教育研究会

はじめに

市立幼稚園では、芦屋市の教育・保育理念「“いのち”を大切にし、生きる力の基礎を育む」に基づき、「あかるく元気な子ども」「しっかり考え合う子ども」「やさしい子ども」を育てたい子ども像とし、教育に取り組んでいます。

そして、芦屋市の幼児教育のセンター的役割を担っている市立幼稚園として、令和元年度から、実践報告集「あしやの幼児教育」を作成し、今年度は3冊目の発行となります。本書は、わかりにくいといわれる幼児教育について可視化を図り、幼児期の大切な学びや小学校教育との接続について広く発信することを目的としています。

幼稚園では、幼児教育の質を高めるために、自然環境を始めとする幼児期にふさわしい様々な環境を整え、幼児が心を揺さぶる経験を重ねながら、育っている資質・能力を読み取る教師の力を伸ばしていくよう努力しています。そこで、今年度も、保育実践をまとめ、幼児理解を深めていく一助になればと作成しました。また、今年度より試験的に実施している岩園幼稚園の3歳児保育の実践事例もまとめ、幼児期3年間の発達にそった教育が積み上がっていくよう取組を進めております。

今後も研究・研修を深め、本市の幼児教育の質の向上を図ってまいります。

芦屋市立宮川幼稚園
岩園幼稚園
小槌幼稚園
西山幼稚園
潮見幼稚園

【本冊子の構成】

やさしい子ども
友達の存在を感じる保育

『ほくほしい！わたしもしたい！』 3歳児

保育者は、それぞれの子どもの自己主張を受け止めていきます。嬉しい気持ちにも、思い通りにならずには断る気持ちにも共感をしながら、一人一人の気持ちに付き合っていきます。子どもが遊びを通して、様々な思いを味わっていくことが「やさしい子ども」を育てる基礎になると考えます。

<“ふうせんかずら”の種ほしい！>

Point 1

- 子どもが遊びに生かせる草花を、子どもの目につく場所で開催する
- 園つたときに保育者に甘えたり、優しくされたりする経験ができるように心がける

Point 2

- 自分と友達の良いところを感じられるように、どちらの気持ちにも共感する
- 相手の思いを伝えていくことを何度も繰り返す

芦屋市の育てたい3つの子ども像を色分けしている。
「あかるく元気な子ども」→ 桃
「しっかり考え合う子ども」→ 緑
「やさしい子ども」→ 黄

事例における主な育ちについて記入

教師が意図して投げかけた言葉を記入

教師が特に意識して援助した内容を記入

遊びの展開

Point 3

更に雨に興味が広がるよう造形活動につなげる

子ども遊び

雨水と水道から出る水が同じことを実感する。
- 屋根のない場所に歩いておく、雨の水がたまるところを実感する。
- 屋根の形によって雨水のたまりやすさに差があることを知る。

【保護者の声】

「何でこうなるのだろうと、疑問に思ったことを試したり工夫したりする姿が見られるようになりました。池のざりがニヤカムの様子など、身近な自然に興味をもつようになりました。自分の思いを伝えようとして、友達は何を思っているのかを気に掛けたりするようになりました。」

※5 の遊びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	小学校の教科
「いろいろな容態に水がたまるところを実感する」	「よりたくさん集めたい」という思いをもつ	「思考力の芽生え」 「自然との関わり」 「生活尊重」 「言葉による伝え合い」
「雨の水がたまるところに気づく」	「どうしたらより多く集まるか」	生活 国語

子どものつぶやきや感じていることを吹き出しに記入

実際の子どもの姿を撮影した写真

事例の遊びを通した、主な子どもの育ち

事例の遊びを通して、保護者が感じた子どもの育ちを記載

※の写真の場面で、「幼児期において育みたい3つの資質・能力」及び、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどの項目に幼児の育ちが繋がっているのかを分析。さらに、それが小学校のどの教科の資質・能力につながっているのかを分析。

(分析する上で、『幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、幼稚園教育要領第1章総則の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、3つの資質・能力を一体的に育むよう努める』及び『「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するもの』であることを踏まえる。)

目 次

はじめに

本冊子の構成

- ・ あかるく元気な子ども 1
- ・ しっかり考え合う子ども 7
- ・ やさしい子ども 13
- ・ 子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力
. 19
- ・ 幼児期の終わりまでに育てほしい姿 21



あかるく元気な子ども

一人一人の遊びを大切にする保育

『お花がお水の中でぽわんぽわんする』 3歳児

< 願いを込めた環境構成 >

3歳保育室

保育室前に3歳児コーナーを作る
(自由に摘める花・様々な大きさや形状の容器、机、タライ、バケツの用意)

《 Point 1 》

担任の傍で、安心して遊べる場所と、ゆったりとした時間を確保する



僕この色が好き!

< 環境を生かし、いろいろな遊びを楽しみ出す3歳児 >

よしよし、入ってるぞ

ぽわんぽわんする!



ぐるぐるまわるよ!



私むらさき好き! すくっちゃおう!



ヨーヨーができたよ!!

<子どもの姿から、環境の再構成>

楽しいことを、繰り返す

《 Point 2 》

- ・それぞれに遊びたいことが十分にできる時間を確保する
- ・楽しい雰囲気的空間を作る



パラソル机, お家みたい

※ 1

水を入れるのが楽しい!



きれいでしょ!

お花とボールも浮かべたよ

《 Point 3 》

土を混ぜる幼児と、色水をする子どもがいることから・・・机の上にもタライを置き、きれいな水を使える環境を確保する



あっ、色水したかったのにとろとろだ

(タライに入って)お水気持ちいい!

ここなら色水ができるね

大きい組さんみたいにこんなの(じょうご)使ってみるよ

～ 子どもの学び ～

- ・身近な環境を取り入れて遊び、不思議さや面白さを感じる。
- ・ゆるやかな友達とのつながりの中で、様々なことに気付く。
- ・繰り返し試したり考えたりする中で、好奇心や探求心をもつ。

※ 1 の学びの接続

【 保護者の声 】

- ・幼稚園で作った色水を大事に持って帰る姿から、楽しんでいることが分かります。
- ・自然環境が豊かでいいなあと思います。
- ・登園する道すがら、草花を見つけて、幼稚園に持っていきたいと言うことが増えました。



幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
知識及び技能の基礎	思考力, 判断力, 表現力等の基礎	学びに向かう力, 人間性等	→ 小学校教科 生活
・年長児が花と水を使って遊んでいることを知っている	・カップを使って水をペットボトルに入れる ・花びらを水に浮かべる ・様々な道具の中から自分で選んで試す	・面白いことを発見する ・満足するまで繰り返す	「健康な心と体」 「自然との関わり」 ・生命尊重 「思考力の芽生え」



あかるく元気な子ども

砂、泥、水の感触を存分に味わう保育

『お砂って気持ちいいね』 4歳児

砂の中に、手を埋めちゃおう

つめたくて気持ちいい

コーヒースーフができたよ

《 Point 1 》

安心して存分に楽しめるよう、4歳児の遊びの空間を確保する



砂遊び



どこまで水流れるかな

築山で水流し



みんなの分、分けとあげるね



《 Point 2 》

子どもが選んだり試したりできるように、様々な道具を用意する(ふるい、ひしゃく、とゆ、等)

さら砂づくり

お皿おさえとくね

泥だんごづくり



銀色のふるいを使うと、さらさらの砂ができるよ



お水を入れてぎゅ!

できた!!

きれいな丸になってきた



さら砂をかけて、なでなでするんだ



みんなで行った
ゴルフ場の山を作ろう

※ 2

《 Point 3 》

- ・子どもの驚きや不思議，発見に共感する
- ・子どもの思いついたものが実現できるように，用具を用意する

お水をかけたら
固い山になるよ

山にくねくね
道，一番上が
ゴルフ場！

遠足のバスが出発
しまーす

ゴルフ場遠足
楽しかったね

もっと大きくしよう

ゴルフ場には池があった
から穴掘ったけど…

お花も飾ったよ

先生，ビニール
ちょうだい

何に使うの？

穴にビニール袋を敷い
たら，水を入れてもな
くならないよ

水入れたのに
なくなっちゃう

本当だ，不思議だね

すごい発見だね！

～子どもの学び～

- ・幼稚園のいろいろな場所で，砂や泥，水の感触を存分に味わう。
- ・砂の特性や感触の違いに気付く。
- ・道具を選んで遊びを工夫する。
- ・自分たちが経験したことをイメージしながら遊び，友達と一緒に遊ぶとより楽しくなることを感じる。

※ 2 の学びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	➡ 小学校教科
知識及び技能の基礎	思考力，判断力，表現力等の基礎	学びに向かう力，人間性等		
<ul style="list-style-type: none"> ・砂に水をかけると固くなることを知っている ・時間が経つと，水は砂に染み込んでいくことに気付く ・ビニールに水が溜まることを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・道を掘るために山に水を掛けて固める ・穴に水を貯めるためにビニールを敷く 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの経験からイメージするものが表現できて嬉しい ・友達と一緒に作るのが楽しい 	<ul style="list-style-type: none"> 「健康な心と体」 「自然との関わり」 ・生命尊重 「豊かな感性と表現」 	<ul style="list-style-type: none"> 生活 図画工作



あかるく元気な子ども

主体性・協同性を育む保育

『昆虫館みたい！』 5歳児

4歳児の時から園内の生き物や植物に積極的に触れ、自ら育てたり遊びに取り入れたりして工夫して遊ぶ生活を重ねてきた。5歳児になり、親しみをもってかかわってきた生き物や植物の特徴や営みにも自ら気づき、友達と共に関わって行って欲しいと願っている。

- A 児:「卵に目がある！」
- B 児:「卵の模様だよ！」
- C 児:「卵の模様？卵の中の赤ちゃん？」
- D 児:「どっちかな？」

《 Point 1 》

興味をもったこと、疑問に思ったことを誰もが、じっくりと見たり考えたりできる環境を整える



タブレットで撮った写真を拡大することで気が付きにくい子どもにも認識できるようになる



メダカの卵！
水草にいっぱい
ついている

卵は別にした方がいいって
図鑑にのっていたよ

《 Point 2 》

自分で試したり調べたりできる適量の
材料と場を確保する
(植木鉢、土、虫カゴ、図鑑 等)



テントウムシの幼虫
大きくなってきた！
口はどんなのかな？



何の種だろう？植えてみよう！

《 Point 3 》
 気付きや思いを伝える場所を確保する
 (言葉や身振り表現, 絵, 制作など)

虫カゴがたいない! → **自分で作ろう!!**

絵本を作る

メダカが卵を産んだよ

※ 3

窓から虫が見えるよ



「絵をつなげたら絵本みたいだね！」
 「本当だ！僕も作ってみよう」

《 Point 4 》
 家から必要なものを持って来たり工夫したりして虫カゴを作り、生き物の生活しやすい環境を考え始めた子どもの思いを受けとめ、工夫や協同性を促す

自作の虫カゴ



ダンゴムシが走れるよ

部屋が研究所みたい!



～ 子どもの学び ～

- ・自分で考えたり友達や保護者、保育者に相談したりして、必要な物を用意する。
- ・生き物や植物の観察や世話をしやすくするために、こうしたいというイメージをもって工夫する。
- ・生き物の特性、営みに対して理解が深まる。

※ 3 の学びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	小学校教科
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等		
<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫が過ごしやすい環境を知っている ・虫カゴに適した素材を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・足りなければ自分で、何とかしようとする ・友達の作った虫カゴのアイデアを知り、取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物に対する親しみを感じ、大切にしたいと思う ・昆虫が過ごしやすい、見やすい、などを考える 	<ul style="list-style-type: none"> 「自立心」 「思考力の芽生え」 「豊かな感性と表現」 「自然とのかかわり・生命尊重」 「言葉による伝え合い」 	<ul style="list-style-type: none"> 生活 図画工作 国語



しっかり考え合う子ども

表現活動につながる保育

『いちごレストランがいっぱい』 3歳児

自分で収穫し、食べる実体験の大切さ

《 Point1 》
子どもの目に留まりやすいよう、保育室の前にイチゴ畑をつくる



大きくなってね



いちごさん、赤くなったかな？

おおきいいちご見つけた！これ食べたい！

保育者が赤い折り紙をクシュクシュすると…

赤い折り紙に、子ども達の気持ちが集まります。手を広げると、丸まった折り紙が出てきました。「イチゴになった！」とみんな作りたい気持ちでいっぱいになりました。



できた！

ギュ、ギュ、ギュー



見て、見て

いちごがいっぱいできたら…

《 Point2 》
繰り返し作ることができる時間と素材の種類、量を考える

○赤色の折り紙…多めに用意

○いろいろな形の透明の容器

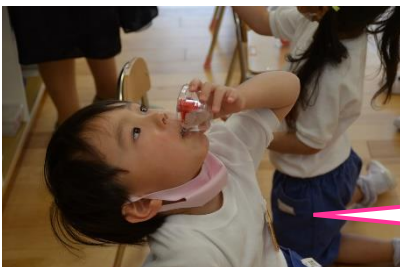
○紙皿

★子どもが自由に作ったり、使えたりできるように机の上に置く



いただきまーす！
おいしい！

もっと作りたい



ほくは、コップに入れて「イチゴアイスクリーム」



(椅子を使って、お店屋さんにして)アイスクリーム屋さんですよ

お料理を作ったり、お皿に並べたり、
ごっこ遊びがはじまって…

チン、するの



アイスクリームは
いりませんか？

いちごジュースは
いりませんか？

※ 4

《 Point3 》

- ・保育者も一緒にごっこ遊びを楽しむ
- ・ごっこ遊びで必要な机や積み木がいつでも自由に使えるように配置する



～ 子どもの学び～

- ・毎日水やりをしてイチゴが大きくなるのを見たり、自分でとって食べたりすることで、イチゴが好きになる。
- ・自分で、折り紙を使ってイチゴができたことを嬉しく感じる。
- ・自分で作ったイチゴを使って、保育者と一緒にごっこ遊びを楽しみ、充実感を味わう。

※ 4

の学びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	小学校教科
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等		
・折り紙を丸めると丸くなる	<ul style="list-style-type: none"> ・赤い紙を丸めるとイチゴのようになる ・お皿やコップにイチゴをのせて並べる ・お店屋さんになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いっぱい作れて嬉しい ・保育者が食べてくれて嬉しい ・お店屋さんごっこが楽しい 	<ul style="list-style-type: none"> 「数量・図形への関心・感覚」 「思考力の芽生え」 「豊かな感性と表現」 	<ul style="list-style-type: none"> 図画工作 生活 算数

しっかり考え合う子ども

探求心・思考力を引き出す保育

『雨をたくさん集めたい』 4歳児



雨が続く中、雨音に気付いて欲しくて
やかんや金パケツ等を軒先に置く
子どもの興味は溜まった雨水に集まる

《 Point 1 》

- ・子どもの気付きにつながる環境を構成する
- ・子どもの発想を生かした遊びを展開する



もっと もっと 集めよう!

雨って 集まると 水になるんだ!



大きなタライなら
雨もたくさん 集まるんじゃないかな

《 Point 2 》

繰り返し試して工夫できる場所と
時間を確保する

何度も確認!



雨がたくさん当たる お庭に置いてみよう

途中で見に行くとときに
濡れちゃうな



この場所が いちばん いいね

色々な器を子どもの目に付く
場所へ置いておく

他に いい入れ物は あるかな



ペットボトルって たくさん集まりそう

ヨーグルトのカップはどうかかな





どれだけたまったかな？

ペットボトル そんなに入れてなかった

ボールにはたくさん 入ってるよ

ヨーグルトカップ
どこかへ行っちゃった

ザルの中には
たまってないね

どう？たまって？

軽いのは
風で飛んでいくんじゃない？



※ 5

《 Point 3 》

更に雨に興味広がるよう造形活動につなげる



雨水で泥んこ遊び

遊びの展開



雨水でしみ絵



傘の制作

水たまりで 泥んこするの 楽しいね

～子どもの学び～

- ・雨水と水道から出る水が同じことを実感する。
- ・屋根のない場所に器を置いておくと、雨の水がたまることを実感する。
- ・器の形によって雨水のたまりやすさに差があることを知る。

【 保護者の声 】

- ・何でこうなるのだろうと、疑問に思ったことを試したり工夫したりする姿が見られるようになりました。
- ・池のザリガニやカメの様子など、身近な自然に興味をもつようになりました。
- ・自分の思いを伝えようとしていたり、友達が何を思っているのかを気に掛けたりするようになりました。



※ 5 の学びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	→ 小学校教科
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等		
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな容器に水がたまることを知っている ・雨の水がたまることに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨が水だと実感する ・雨をたくさん集めて遊ばたい ・どうしたらより多く集まるか試す 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりたくさん集めたいという思いをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 「思考力の芽生え」 「自然との関わり」 ・「生命尊重」 「言葉による伝え合い」 	<p>生活国語</p>



しっかり考え合う子ども

好奇心・探求心を引き出す保育

『生き物救出 大作戦！！』5歳児

気付く

池の中が濁って
よく見えないな...

そういえば掃除
したことないよ

ウンチで汚れ
てるのかな...

みんなで掃除する？

試行錯誤

とにかく試してみよう！

※ 6

金魚はどう
やってすく
う？

ザリガニは釣り
竿で釣ろう！

砂場のフライパンですく
ってみる？金魚さん、びっく
りするかな...

魚は小さい網で捕まえ
るのがいいんじゃない

《 Point 1 》

- ・一人の子どもの気付きから、みんなで考え合える話し合いの場づくり
- ・子どもの心を揺さぶる投げ掛けをする

どうやって掃除するの？

想像力・思考力
を働かせる

テレビで池掃除をしているの観たことある！最初に池の水を全部抜いてから、生き物を網ですくってたよ！

すくうには
バケツがいいよ

赤ちゃんメダカも
無事に救出成功！

小さなエビ発見！



最後の一匹まで
救い出すぞ！！

思ったより
たくさんいたね

実際の個体数	
ザリガニ	36匹
(内訳) 赤ツメ	5匹(特大)
赤ちゃん	6匹
フナ	10匹
金魚	14匹
小エビ	30尾
メダカ	45匹



生き物を池に戻す前に、より生き物に関心をもてるよう数を数えてみると『こんなに生き物がいたんだ！』という驚きにつながった。

《 Point 2 》
生き物の数を予想する場を作り、池にはいろいろな生き物が生息し、営みを行っていることを知る機会にする



ザリガニ発見！
どこにかくれるのか追跡しよう



お水がプールみたいにきれいになった！

《 Point 3 》
地域の方や小学校の先生から水草の役割を覚えてもらう機会を作る



～ 子どもの学び ～

- 池の生き物と触れ合うことで生き物に対する興味や関心、好奇心が高まる。
- たくさんの生き物の命がこの池にあることを知り、驚く。
- 困難を解決するために知っている知識を活用し、試行錯誤しながら課題解決策を見出す。
- 友達と力を合わせて、一つのことを成し遂げる達成感を味わう。

※ 6

の学びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	小学校教科
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等		
<ul style="list-style-type: none"> 生き物の捕まえ方のいろいろを知る 池に金魚やフナ等の生き物がいることを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> 生き物や池の水をすくいだす方法を自分なりに試行錯誤する 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで力を合わせて生き物が暮らしやすい環境を考える 生き物を大切に思う 	<ul style="list-style-type: none"> 「自然との関わり・生命尊重」 「協同性」 「言葉による伝え合い」 	<ul style="list-style-type: none"> 生活 国語



やさしい子ども

友達の存在を感じる保育

『ぼくもほしい！わたしもしたい！』 3歳児

保育者は、それぞれの子どもの自己主張を受け止めていきます。嬉しい気持ちにも、思い通りにならず葛藤する気持ちにも共感をしながら、一人一人の気持ちに付き合っていきます。子どもが遊びを通して、様々な思いを味わっていくことが、「やさしい子ども」を育てる基礎になると考えます。

< “ふうせんかずら”の種ほしい！ >



いっぱいあるね

ふわふわする

< Point 1 >

- ・子どもが遊びに生かせる草花を、子どもの目につく場所で栽培する
- ・困ったときに保育者に甘えたり、優しくされたりする経験ができるように心がける

手が届かないところは、先生がとってあげるよ！はい、どうぞ

A児「(その入れ物) ちょうだい」
 B児「ぼくの種がはいってるの！」
 「だめ！」「はなして！」

ぼくの、貸してあげようか

大丈夫かな？

※ 7

種、入ってるかな？
(A児)



物の取り合いは日常茶飯事。この経験を友達の気持ちを知ることにつなげていこう

「Bくんは、貸したくないのね」
「Aくんは、その入れ物が欲しいのね」「Aくん、先生と一緒に探しに行こう」



< Point 2 >

- ・自分と友達の気持ちの違いを感じられるように、どちらの気持ちにも共感する
- ・相手の思いを伝えていくことを何度も繰り返す

C児「一緒にいれていい？」 A児「いいよ」

<だんごむし見つけた！>



Dくんみたいにコ
ーン取ってこよう

《 Point 3 》

- ・安全面に配慮し、子どもが考え出した遊びを見守る
- ・自分のしたいことが言い出せない子どもの気持ちを察して援助する

D児「ダンゴムシ、
いるかな？」

つかまえた！

ほくも見
たいなあ

この穴からダンゴ
ムシが見える！



Dくんみたい
にダンゴムシ
捕まえたい

いた！ここ、
いっぱいいる！



Eくんも見たいの？Dくんにってみ
る？「見せて」って言ったらいよ

E児「ほくも、見せて！」

Dくん、ありがとう

D児「いいよ」

Eくん、上手に言えたね

～ 子どもの学び ～

- ・物の取り合いを通して、自分と友達の違いを感じる。
- ・友達とけんかになって嫌な気持ちを味わった後、一緒に種をとってくれる友達がいて嬉しい気持ちを味わい、友達がいる喜びを感じる。
- ・友達が取り合う姿を見て、近くにいる子どもは心配になったり、助けようとしたりするなど心が動く。
- ・種とりやだんごむし探しを一緒にすることで、見つけた喜びを共有する。

※ 7

の学びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等	→ 小学校教科
・ふうせんかずらの実の皮を破ると中に種が入っていることを知っている	・種をたくさん集めるために容器を使う	・種をたくさん集めたい ・自分の気に入った容器に種を入れたい	「健康な心と体」 「自然との関わり・生命尊重」 生活



さしい子ども

身近な生き物を通して命の大切さを知る保育

『チョウの家族が待っているよ』 4歳児

<『みつけたよ』にかざりたい！>



先生、見て～

葉っぱみつけたよ

《 Point1 》

『みつけたよ』のコーナーで、見つけた物を保育者や友達と共有できるような環境を作る



素敵だね！

なんだろう？

おもしろいね

何があるの？

<ダンゴムシ大好き！>

どこにいるかな？



見つけた！

僕のお家にいれよう

《 Point2 》

4歳児の手に合った入れ物を用意する
(持ちやすい大きさ・透明で見やすい)



かわいいね



ダンゴムシの家をつかったよ

- 〈大きい組さんが教えてくれたよ！〉
- 「栄養満点の畑の土を入れてね」
- 「砂場の砂は苦しくなっちゃうよ」
- 「食べ物もいれてね」
- 「葉っぱ・草・石をいれてね」
- 「水をシュッシュしてね」
- 「湿った所が好きだよ」



ダンゴムシさん
よろこんでるね！
草の上に登ってるよ！

<チョウがうまれたよ！>

～生まれたチョウをどうしよう？～

※ 8



置いておきたい

お花入れているから大丈夫だよ

かわいそうだよ

好きなお花があるよ

家族が待ってるから

一人ぼっちだと悲しいから

僕もそう思う



外に放すことに

自分と重ね合わせる

早く(お家に)帰らないと



自分で行きたい時に飛んでいってね！
蓋を開けてそっと待ってるね

気を付けてね

元気でね



お母さんに会えますように

《 Point3 》

クラスで考える時間を大切にし、自分の思いを伝えたり、友達の考えを知ったり出来るようにする

～子どもの学び～

- ・自分が見つけた喜びや不思議に感じたことを教師や友達と共有出来る喜びから、更に見付けることや伝えることが楽しくなる。
- ・生き物に出会った時、自分の生活に重ねて生き物の気持ち考えることで、命の大切さを知る。

※ 8 の学びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	→ 小学校教科
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等		
・チョウが生きていくために、花が必要だと知っている	・自分の思っている事を話す ・友達の思いを聞いて考える	・チョウを自分と重ね合わせて、家族に会わせてあげたいと思う	「思考力の芽生え」 「自然との関わり」 ・生命尊重 「言葉による伝え合い」	生活 国語



さしい子ども

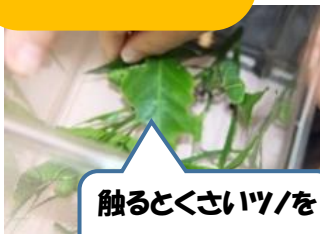
自然への愛情を育む保育

『 さくらぐみのチョウ物語 』 5歳児

幼児が家庭で見つけたカタツムリを持って来たことをきっかけに、他児も家庭で見つけた生き物をクラスに持って来るようになった。身近に色々な生き物がいることで、今まで生き物にあまり興味がなかった幼児も、観察したり、気付いたことを友達と共有したりする姿が見られるようになっていった。

① チョウを育てよう

【幼虫(アオムシ)】



触るとくさいツノを出すんだよ！

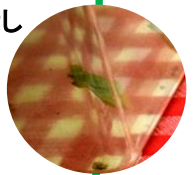


ほんとだ！

黄色いツノが出てきた！！

《 Point 1 》

- ・アオムシの日々の変化を書いて貼り、可視化する
- ・チョウの成長や変化をクラスで共有し、話し合う場を設ける
- ・幼児が持って来たチョウの幼虫について、興味を広がるよう図鑑や絵本を用意する



② お話を作ろう！～幼虫編～

※ 9

① 幼虫のことでお話ししたいことはある？



② 鳥のウンチみたいな黒だった

黒色から緑色になった

緑色の幼虫が黄色いツノを出すこと！

④

触ったらツノが出てきた！

怒ってたんじゃない？

すごくくさいんだよ

⑤

敵が来たらくさいツノを出すんだよ

③ どんな時にツノを出すの？

《 Point 2 》

- ・自分が知ったことや面白いと感じたことを言葉にし、友達に伝える機会をもつ
- ・子どもが言いたいことをホワイトボードに書き出し、可視化する
- ・より自分の思いを出しやすいよう、グループに分かれて話す内容を考える場を作る
- ・友達が話したことに共感したり、意見を言ったりしながら皆で物語を作ることができるよう話し合いを進める

「怒るとくさいツノを出します」
にしよう！

③ お客さんに聞いてもらう



ペープサートを作ろう！

チョウを飛ばしながら登場しよう！



「ちょうちょう」の歌も歌おう！

～ 子どもの学び ～

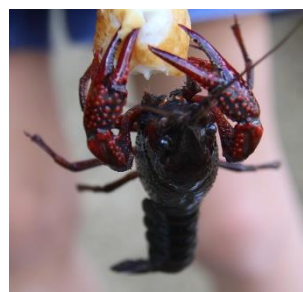
- ・自分が見付けたことや気付いたことを友達と共有し、様々な生き物に興味広がる。
- ・家で飼育した生き物の様子を写真や文字でまとめ、保育者や友達に見せたり、掲示したりし、自分の思いを分かるように伝える。
- ・様々な命を大切にすることが芽生え、その後も他の生き物の世話も進んでしようとしたり、成長を楽しみにしたりする。



ニホントカゲ



モリアオガエル



ザリガニ

【 保護者の声 】

- ・伝えることの楽しさを知ったことで、今までは生き物を捕まえるだけだったのが、生き物について調べたり、自分の知識や体験を友達に伝えようとしたりするようになりました。
- ・自分の家庭だけでは触れられない色々な生き物に触れる経験ができました。家庭でも兄弟や親子で飼育したり調べたりすることを楽しめました。
- ・自然豊かな芦屋でこれからも様々な生き物に触れていってほしいです。



※ 9 の学びの接続

幼児教育において育みたい資質・能力			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	→ 小学校教科
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等		
・アオムシがチョウになることを知っている	・友達と飼育したアオムシについて話をする	・聞いている人に分かるように話をしようとする	「思考力の芽生え」	
・アオムシがにおいのある触覚を出す様子を見たことがある	・アオムシに触れて体験したことを言葉で伝えようとする	・友達が話したことをイメージし、共有する	「自然とのかかわり 生命尊重」	国語 生活
・チョウについて図鑑で調べたり、話を聞いたりして知識を得る	・体験や経験したことを振り返り、伝えたいことを整理し考える	・友達の話を聞き、自分が知っていることを伝えようとする	「言葉による 伝え合い」	

【子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力】

	幼稚園教育において育みたい3つの資質・能力		
	(1) 知識及び技能の基礎	(2) 思考力, 判断力, 表現力等の基礎	(3) 学びに向かう力, 人間性等
遊びや生活	豊かな体験を通じて, 感じたり, 気付いたり, 分かたり, できるようになったりする。	気付いたことや, できるようになったことなどを使い, 考えたり, 試したり, 工夫したり, 表現したりする。	心情, 意欲, 態度が育つ中で, よりよい生活を営もうとする。

	小学校第1学年で育成することを目指す3つの資質・能力		
	(1) 知識及び技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力等	(3) 学びに向かう力, 人間性等
国語	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに, 我が国の言語文化に親しんだり, 理解したりすることができるようにする。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い, 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えをもつことができるようにする。	言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切にしてい, 思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
算数	数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し, 量, 図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね, 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに, 加法及び減法の計算をしたり, 形を構成したり, 身の回りにある量の大きさを比べたり, 簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	ものの数に着目し, 具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力, ものの形に着目して特徴を捉えたり, 具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力, 身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え, 量の大きさの比べ方を考える力, データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。	数量や図形に親しみ, 算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。
生活	学校, 家庭及び地域の生活に関わることを通して, 自分と身近な人々, 社会及び自然との関わりについて考えることができ, それらのよさやすばらしさ, 自分との関わりに気づき, 地域に愛着をもち自然を大切にしたり, 集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。	身近な人々, 社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して, それらを工夫したり楽しんだりすることができ, 活動のよさや大切さに気づき, 自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。	自分自身を見つめることを通して, 自分の生活や成長, 身近な人々の支えについて考えることができ, 自分のよさや可能性に気づき, 意欲と自信をもって生活するようにする。

音 楽	曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見い出しながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。
図画工作	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに、手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて考え、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。
体 育	各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行いを知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。	各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。	各種の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、健康・安全に留意したりし、意欲的に運動をする態度を養う。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

(1) 健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
(2) 自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
(3) 協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
(4) 道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
(5) 社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域の親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
(6) 思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
(7) 自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをかかわるようになる。
(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
(9) 言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
(10) 豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※ 出典・参考文献

- 幼稚園教育要領（平成29年告示） 文部科学省
- 幼稚園教育要領解説（平成30年3月） 文部科学省
- 小学校学習指導要領（平成29年3月告示） 文部科学省

